

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	1	社会教育総務費	362

部局名	教育部
課名	文化推進課

I：事業概要

施策事業名	社会教育一般
事業目的	社会教育活動の推進に資する事業及び社会教育団体の育成のための補助事業を行う。
事業内容	<p>●全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民主体の社会教育活動や生涯学習活動を積極的に展開するため、社会教育団体の育成に資する補助事業や社会教育事業を推進する。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育審議会等の開催</li> <li>中学校への吹奏楽部活動指導員派遣事業の実施</li> <li>市民展の開催</li> <li>社会教育団体及び文化事業への補助</li> <li>文化芸術活動全国大会等出場者への賞賜金の支給、垂れ幕の作成</li> <li>するすみふれあい広場の管理運営</li> </ul> <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育委員報酬 280,800円</li> <li>中学校部活動指導者謝礼 1,766,000円</li> <li>市民展開催委託料 1,386,000円</li> <li>社会教育団体補助金(6団体) 1,605,000円</li> <li>文化芸術活動全国大会等出場者賞賜金 370,000円</li> <li>するすみふれあい広場管理委託料 1,060,400円</li> </ul>
事業の成果・効果	中学校への吹奏楽部活動指導員派遣事業を継続して実施することで、土日や長期休みに活動している吹奏楽部活動顧問の負担を軽減するとともに、質の高い中学校部活動の環境整備に寄与した。犬山市文化芸術活動全国大会等出場者激励費支給を行い、文化芸術分野における全国大会等出場者37名に対し賞賜金の支給、希望者には市民ロビーに垂れ幕を設置し文化活動を周知した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

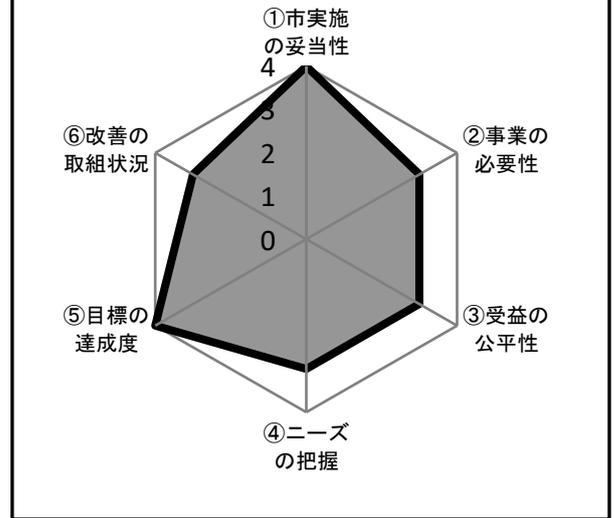
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
社会教育総務事務	203	0	203	100%	4	4	4
社会教育委員	301	0	301	100%	4	4	3
文化振興	4,075	604	3,471	85%	4	4	4
社会教育団体補助	1,605	0	1,605	100%	3	3	3
するすみふれあい広場管理	1,733	263	1,470	85%	4	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,917	867	7,050	89%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		8,063	7,917	8,439
財源内訳	国県支出金	604	604	604
	地方債	0	0	0
	その他	241	263	242
	一般財源	7,218	7,050	7,593
一般財源の割合		90%	89%	90%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	社会教育委員については、社会教育法第15条及び犬山市社会教育委員設置条例第1条において設置することとしている。
②事業の必要性	3	犬山市立中学校吹奏楽部部活動指導員派遣事業については、教員の多忙化や指導者不足の解消のため今後さらに必要性が高まっていく事業である。社会教育団体への補助については、ガイドラインに沿った交付を行う。
③受益の公平性	3	市民で構成される社会教育団体への補助等は少数の市民を対象とする事業である。
④ニーズの把握	3	犬山市立中学校吹奏楽部部活動指導員派遣事業については、吹奏楽部顧問への聞き取りを実施し、意見を反映している。
⑤目標の達成度	4	社会教育団体（6団体）への補助であり、各団体の事業計画に沿った活動を遂行することができている。
⑥改善の取組状況	3	各事業が適正に実施されるよう、今後も検証を続けていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	教育委員会に必置義務のある社会教育主事の資格取得者を確保するため、継続して職員が研修会へ参加した。
令和7年度に見直しを実施している事項	オンラインでの交流会等も活用し、他市町との情報交換を積極的に行う。先進実践を学ぶことにより、職員、関係者の力量向上を目指す。 中学校の部活動の地域移行について、休日合同クラブの実施をする。
今後見直しを検討する事項	市民が主体となって実施する生涯学習事業の支援の在り方について検討していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
中学校の部活動について、運動部とともに、吹奏楽部の地域移行を円滑に進める。	部活動の地域移行については、学校教育課及びスポーツ交流課と連携して、中学校の部活動の顧問や参加している生徒の要望や意見を聞きながら、スケジュールに沿って進めていく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	1	社会教育総務費	362

部局名	教育部
課名	文化推進課

I : 事業概要

施策事業名	生涯学習
事業目的	市民が幅広い教養や知識を身につけることを目的に、生涯学習機会の提供、生涯学習活動の支援を行う。
事業内容	<p>●全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民ニーズに合った魅力ある生涯学習事業を展開するとともに、生涯学習情報の提供を行う。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民総合大学の開催</li> <li>子ども大学の開催</li> <li>ロボット塾の開催</li> <li>生涯学習出前講座の実施</li> <li>市民講師登録制度の活用</li> </ul> <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民総合大学講師謝礼 1,697,600円</li> <li>市民総合大学開催委託料 1,502,200円</li> <li>子ども大学開催委託料 7,307,520円</li> <li>ロボット塾開催委託料 432,300円</li> <li>ICT相談業務委託料 1,760,000円</li> </ul>
事業の成果・効果	「市民総合大学敬道館」では、市民に学ぶ喜びを感じてもらうため「いつでも」「どこでも」「誰でも」自ら学ぶ事のできる講座を実施した。 「子ども大学」等の各種生涯学習講座では、NPO団体や社会教育団体との連携により開催した。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

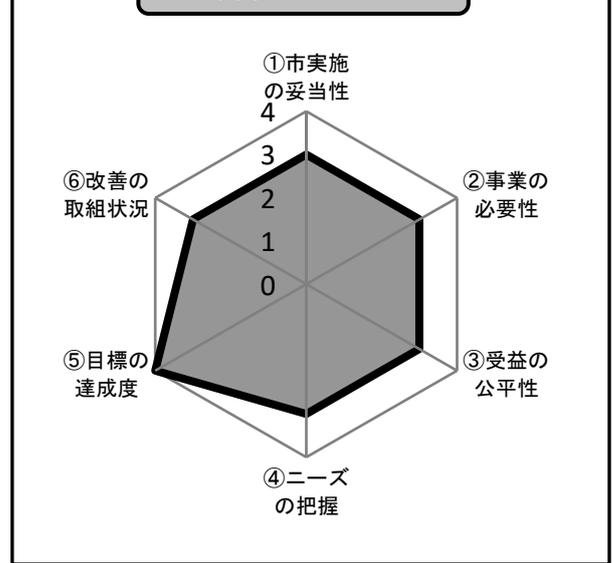
(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
市民総合大学	4,488	1,861	2,627	59%	4	3	4
生涯学習講座	9,500	5,671	3,829	40%	4	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	13,988	7,532	6,456	46%	4	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		13,192	13,988	14,170
財源内訳	国県支出金	4,221	3,978	4,110
	地方債	0	0	0
	その他	3,186	3,554	4,228
	一般財源	5,785	6,456	5,832
一般財源の割合		44%	46%	41%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	健康寿命が延伸する中、市民が生涯にわたって学び続けることができる生涯学習機会の提供は、必要である。事業によっては、市内NPO団体等地域との連携により実施したのもあったが、実施主体としては、民間の可能性を検討する。
②事業の必要性	3	「市民総合大学敬道館」は延べ812名が受講。全講座を実施。「子ども大学」は受講者数318名が参加をし、市民の生涯学習の場として寄与した。
③受益の公平性	3	受講申込をした市民が対象となる事業ではあるが、受益者負担とし、相応の参加料を徴収している。
④ニーズの把握	3	受講者に対し事業終了時にアンケートを実施しており、受講者のニーズ及び満足度を把握している。
⑤目標の達成度	4	オンライン配信などのお試し受講を実施し、工夫を行いながら、当初計画していた事業を全て実施した。
⑥改善の取組状況	3	利用者、時代のニーズに合った事業内容、適正な参加料について検討していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	市民総合大学敬道館では、著名人だけでなく、市出身講師、市内企業後援の講師を招き、幅広い人材による講座を実施した。子ども大学では、新たに身のまわりのみどり(草木)を使って物づくりをする講座を開設し、五感を使い犬山市の自然を感じる講座を実施した。
令和7年度に見直しを実施している事項	新たな受講者層の拡大を目指して、市民総合大学敬道館では、若い世代が注目する単回受講の講座の新設や、募集要項をカラー化する。子ども大学では、京都大学ヒト行動進化研究センターと連携し、当該施設にてサルを観察などを行う講座を新設する。
今後見直しを検討する事項	市民のニーズを反映した生涯学習事業の内容について検証するとともに、受益者負担の考え方のもと、適正な参加料とともに、申込方法や受講料納付方法の利便性を高めるよう検証する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
市民総合大学について、幅広い世代が参加できるよう、環境の整備や講座内容の検討を継続して行う必要がある。	市民のニーズや地域のニーズを的確に把握し、幅広い世代・状況の市民の方々が参加できる生涯学習事業を提供する。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	2	青少年育成費	366

部局名	教育部
課名	文化推進課

I : 事業概要

施策事業名	青少年育成						
事業目的	青少年の悩みごとに対する助言及び指導と、非行防止や環境浄化など青少年の健全育成を図る活動の拠点として、青少年センターを運営する。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の健全育成及び困難を抱える子どもや若者を支援するため、青少年センターを適正に運営する。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年問題協議会の開催</li> <li>・青少年センターの運営</li> <li>・青少年団体への補助の実施</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                     <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・青少年問題協議会委員報酬</td> <td style="text-align: right;">288,000円</td> </tr> <tr> <td>・講演会等講師謝礼</td> <td style="text-align: right;">150,000円</td> </tr> <tr> <td>・青少年団体補助（3事業）</td> <td style="text-align: right;">576,000円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・青少年問題協議会委員報酬	288,000円	・講演会等講師謝礼	150,000円	・青少年団体補助（3事業）	576,000円
・青少年問題協議会委員報酬	288,000円						
・講演会等講師謝礼	150,000円						
・青少年団体補助（3事業）	576,000円						
事業の成果・効果	青少年問題協議会において、青少年を取り巻く状況について分析し、課題解決に向けた報告書をまとめ、同協議会の下に作られた青少年健全育成市民会議の協力を得て、地域に根差した青少年健全育成活動(あいさつ運動)を展開した。また、青少年健全育成のための講演会や困難を抱えた子ども若者支援のための研修会を開催し、青少年センターに寄せられる悩みを抱える青少年等からの相談には寄り添って対応した。						

II : 個別事業内訳

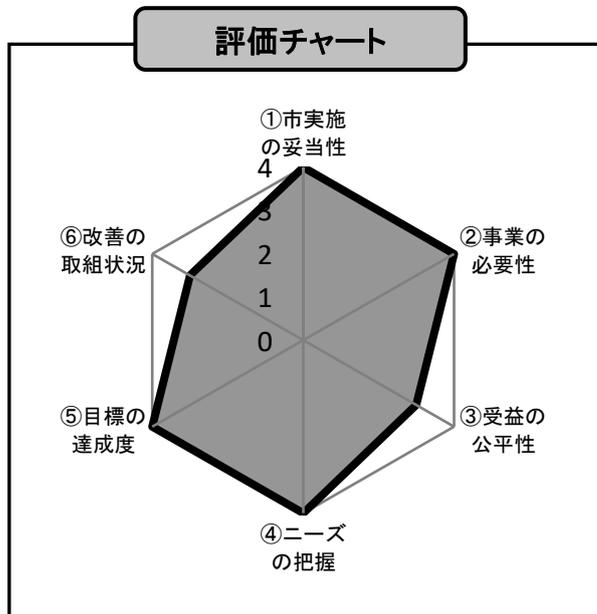
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
青少年問題協議会委員	392	60	332	85%	4	4	4
青少年センター運営	378	117	261	69%	4	4	4
青少年団体補助	576	0	576	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,346	177	1,169	87%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		1,387	1,346	1,575
財源内訳	国県支出金	0	18	30
	地方債	150	159	248
	その他	0	0	0
	一般財源	1,237	1,169	1,297
一般財源の割合		89%	87%	82%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地方青少年問題協議会法に基づき犬山市青少年問題協議会を設置し、青少年センターについては、いじめ、ひきこもり等、困難を抱える子ども若者の支援を繋ぐ機関で、市が実施主体となり運営する必要がある。
②事業の必要性	4	いじめ、ひきこもり等、困難を抱える子ども若者が増加している現状を受け、今後も継続的に青少年センターを核として支援していく必要がある。
③受益の公平性	3	対象者は少数の市民であるが、将来を担う若者の支援を行っており、国の自殺対策補助金等、自主財源以外の資金の活用を図っている。
④ニーズの把握	4	青少年センターで実施する講演会、講座等では、受講者にアンケートを毎回実施し次年度の活動に生かしている。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画を実施することができた。また、目標についても概ね達成することができた。
⑥改善の取組状況	3	困難を抱える子ども若者を支援するための仕組みづくりや他機関との連携について、今後も検証していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	前年度行ったアンケート結果をもとに、テーマや開催方法を設定し、発達障がいの子どもにも適切に対応できるための研修会を実施した。
令和7年度に見直しを実施している事項	研修会において、参加者の悩みに寄り添ったものになるように研修会の内容と持ち方を見直していく。
今後見直しを検討する事項	青少年の悩み相談の活動がより多くの人に周知され、相談しやすい機関となるようにしていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
多様な相談内容に対応できる相談員(人材)の確保が必要である。	今後も、困難を抱える子どもや若者の支援を行う必要があるため、地域、学校や他機関と連携することができる相談員を確保していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	3	公民館費	366

部局名	教育部
課名	文化推進課

I : 事業概要

施策事業名	南部公民館管理運営								
事業目的	南部公民館を生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興及び社会福祉の増進を図る。								
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民、団体の自主的な生涯学習活動及びサークル活動の拠点施設として貸館業務を行う。</li> <li>・南部公民館の管理・運営を適正に行う。</li> <li>・施設を将来にわたって使用していくために必要な営繕・工事を行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の生涯学習のきっかけとなり、誰もが気軽に参加できるような公民館講座の実施。</li> <li>・文化芸術活動を行う市民に発表の場を提供する「市民ギャラリー」の実施。</li> <li>・施設の安全を確保し、適切に利用していくために必要な保守及び修繕の実施。</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・公民館講座講師謝礼</td> <td style="text-align: right;">1,280,000円</td> </tr> <tr> <td>・総合設備管理業務一括委託料</td> <td style="text-align: right;">8,949,132円</td> </tr> <tr> <td>・公民館管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">2,188,560円</td> </tr> <tr> <td>・舞台関係統合管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">7,213,800円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・公民館講座講師謝礼	1,280,000円	・総合設備管理業務一括委託料	8,949,132円	・公民館管理業務委託料	2,188,560円	・舞台関係統合管理業務委託料	7,213,800円
・公民館講座講師謝礼	1,280,000円								
・総合設備管理業務一括委託料	8,949,132円								
・公民館管理業務委託料	2,188,560円								
・舞台関係統合管理業務委託料	7,213,800円								
事業の成果・効果	自主的な生涯学習の場を市民に提供するために貸館業務を行った。 障害者に学校卒業後の学びを支援するため、文部科学省の補助事業を活用し、障害者が参加可能な講座を開催した。 市民に学びの機会を提供するため、公民館講座を開催した。								

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

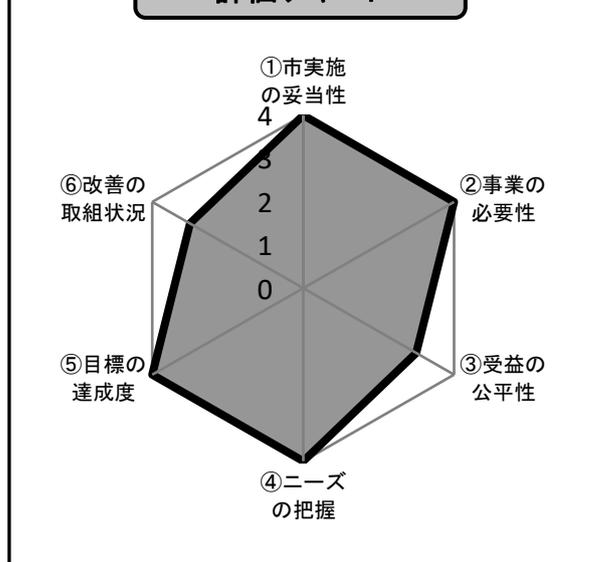
(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
公民館審議会委員	53	0	53	100%	4	3	3
南部公民館管理	31,392	5,569	25,823	82%	3	3	3
南部公民館講座	1,997	1,997	0	0%	4	3	3
南部公民館営繕	2,211	0	2,211	100%	4	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	35,653	7,566	28,087	79%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		32,295	35,653	34,330
財源内訳	国県支出金	1,725	1,888	2,000
	地方債	0	0	0
	その他	6,172	5,678	6,573
	一般財源	24,398	28,087	25,757
一般財源の割合		76%	79%	75%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	社会教育法（昭和24年法律第207号）第20条、公民館の設置及び管理に関する条例により設置している施設である。
②事業の必要性	4	市民の豊かな文化的生活と教養に必要な事業である。
③受益の公平性	3	少数の市民しか対象となっていない事業であるが、受講料や使用料など相応の負担を求めて実施している事業である。
④ニーズの把握	4	公民館講座の受講者にアンケート調査を行い、意見を収集した。
⑤目標の達成度	4	障害者の学びの支援のため、障害があっても気軽に参加できる講座を開催した。不具合箇所を解消するため、適切な修繕を実施した。
⑥改善の取組状況	3	施設の長寿命化のため、適切な修繕を実施した。市民の生涯学習推進のため、各種講座を実施した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	利用者の使いやすさを向上させるため、本日の開催事予定をモニター表示に転換した。
令和7年度に見直しを実施している事項	大規模改修に向け、改修工事の実施設計を行う。
今後見直しを検討する事項	施設の長寿命化に向けた課題の整理。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設・設備の老朽化が進行する中で、長寿命化に向けた効率的な修繕の実施。	専門家の意見を参考にしながら、優先順位をつけ計画的な修繕を行う。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	3	公民館費	366

部局名	教育部
課名	文化推進課

I : 事業概要

施策事業名	小規模公民館								
事業目的	小規模公民館を生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康増進を図る。								
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習活動の場を市民に提供するため、小規模公民館（塔野地、善師野）を適正に管理し、貸館業務を行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理運営(貸館業務、管理委託)</li> <li>・施設の修繕・営繕工事</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・公民館管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">3,735,986円</td> </tr> <tr> <td>・光熱水費</td> <td style="text-align: right;">1,008,997円</td> </tr> <tr> <td>・修繕料</td> <td style="text-align: right;">459,000円</td> </tr> <tr> <td>・塔野地公民館トイレ洋式化改修工事</td> <td style="text-align: right;">1,342,000円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・公民館管理業務委託料	3,735,986円	・光熱水費	1,008,997円	・修繕料	459,000円	・塔野地公民館トイレ洋式化改修工事	1,342,000円
・公民館管理業務委託料	3,735,986円								
・光熱水費	1,008,997円								
・修繕料	459,000円								
・塔野地公民館トイレ洋式化改修工事	1,342,000円								
事業の成果・効果	自主的な生涯学習の場を市民に提供するため、貸館事業を行った。 施設を良好に保つためにファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、施設の適正な維持管理を行った。								

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

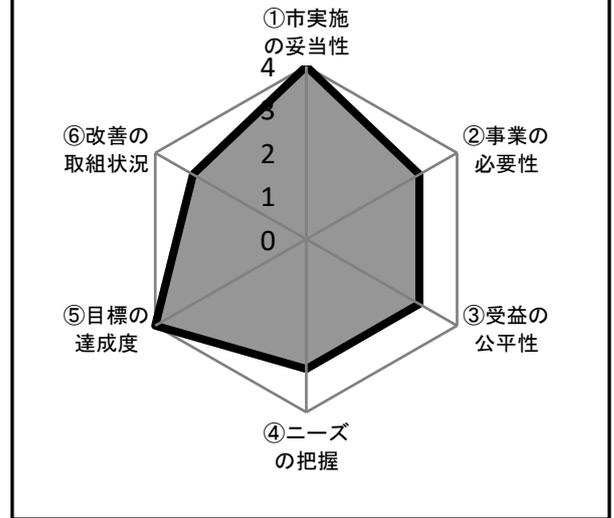
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
小規模公民館施設管理	6,014	115	5,899	98%	3	3	4
小規模公民館施設営繕	1,342	0	1,342	100%	4	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,356	115	7,241	98%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		6,039	7,356	8,124
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	151	115	154
	一般財源	5,888	7,241	7,970
一般財源の割合		97%	98%	98%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	社会教育法（昭和24年法律第207号）第20条、公民館の設置及び管理に関する条例により設置している。
②事業の必要性	3	小規模公民館は2か所とも市と区の協定に基づき設置された施設である。
③受益の公平性	3	条例に基づき使用料を徴収しているが、特定の団体による減免利用が多い。
④ニーズの把握	3	施設の管理人と毎月打ち合わせを実施し、施設の利用状況や営繕要望など聞き取りを行い、常時利用者の声を聴く体制を整えている。
⑤目標の達成度	4	臨時休館することなく、貸館業務を行った。 塔野地公民館トイレ洋式化改修工事等を施工した。
⑥改善の取組状況	3	ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、老朽化した施設のあり方を検証している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	塔野地公民館で1階トイレを改修し、男女で出入口を分け、便器を洋式化した。
令和7年度に見直しを実施している事項	塔野地公民館及び善師野公民館の施設LED化工事や、善師野公民館の2階研修室空調機更新工事を行うなど、利用者が快適に施設を利用することができるよう適正な管理を行う。
今後見直しを検討する事項	施設や設備の老朽化に伴い、施設の管理・運営について検証する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
老朽化した施設の安全性を確保しつつ、どのように維持管理していくか検討する必要がある。	今後も利用頻度や緊急度など優先順位をつけて、施設の修繕を適正に実施し、安全な施設を提供していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	4	学習等供用施設費	370

部局名	教育部
課名	文化推進課

I : 事業概要

施策事業名	学習等供用施設						
事業目的	6か所の学習等供用施設を生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康増進を図る。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の場を市民に提供するため、市内6か所の学習等供用施設（犬山南地区、城東地区、羽黒地区、楽田地区、上野地区、丸山地区）の施設管理を適正に行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理運営（貸館業務、管理委託）</li> <li>・施設の修繕</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・施設管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">20,471,848円</td> </tr> <tr> <td>・光熱水費</td> <td style="text-align: right;">6,083,969円</td> </tr> <tr> <td>・修繕料</td> <td style="text-align: right;">1,418,402円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・施設管理業務委託料	20,471,848円	・光熱水費	6,083,969円	・修繕料	1,418,402円
・施設管理業務委託料	20,471,848円						
・光熱水費	6,083,969円						
・修繕料	1,418,402円						
事業の成果・効果	近隣の小中学生や他の市民の自主的な生涯学習の場を提供するため、貸館事業を行った。施設を良好に保つため、ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、施設の適正な維持管理を行った。						

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

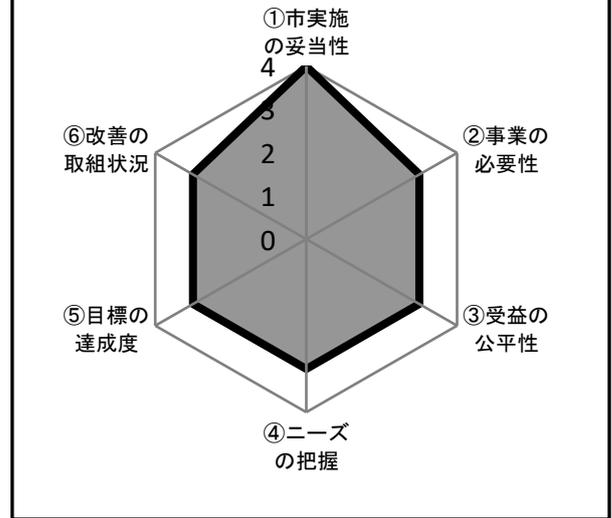
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
学習等供用施設管理	30,658	0	30,658	100%	3	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	30,658	0	30,658	100%	3	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		35,527	30,658	31,410
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	35,527	30,658	31,410
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	学習等供用施設の設置及び管理に関する条例により設置している。
②事業の必要性	3	市民の教育向上、健康増進等、市民の自主的な学びを支援するために設置している施設ではあるが、施設の老朽化、利用状況により、縮小もやむを得ない事業である。
③受益の公平性	3	特定の団体の定期的な利用が多いが、無料施設のため、受益者の負担がない。
④ニーズの把握	3	施設の管理人と毎月打ち合わせを実施し、施設の利用状況や営繕要望など聞き取りを行い、常時利用者の声を聴く体制を整えている。
⑤目標の達成度	3	開館時刻の遅延はあったが、臨時休館することなく貸館業務を行った。雨漏り修繕、系統空調室外修繕その他12件の修繕で95%の達成であった。
⑥改善の取組状況	3	ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、老朽化した施設のあり方を検証している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	羽黒地区学習等供用施設を除く5か所の学習等供用施設において、LED化工事を実施した。
令和7年度に見直しを実施している事項	羽黒地区学習等供用施設において、LED化工事を実施する。
今後見直しを検討する事項	施設や設備の老朽化に伴い、施設の管理・運営について検証する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
老朽化した施設の安全性を確保しつつ、どのように維持管理していくか検討する必要がある。	今後も利用頻度や緊急度など優先順位をつけて、施設の修繕を適正に実施し、安全な施設を提供していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	5	図書館費	370

部局名	教育部
課名	文化推進課

I：事業概要

施策事業名	図書館本館																
事業目的	市民に愛される図書館となるため、図書館の適正な管理運営を行い、誰もが読書に親しめる読書環境の整備を図る。																
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の情報発信の拠点として図書館サービスを展開する。</li> <li>・市民の読書活動の推進を行う。</li> <li>・市立図書館と学校図書館と共有を図り、事業連携を行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館協議会の開催</li> <li>・図書館における講演会の実施</li> <li>・図書館本館の適切な運営と維持管理</li> <li>・図書館業務システムの適正な運用、維持管理</li> <li>・図書購入による資料の充実</li> <li>・図書館施設適切な維持管理</li> <li>・図書館のICT化を推進</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・図書館協議会委員報酬</td> <td style="text-align: right;">57,600円</td> </tr> <tr> <td>・総合設備管理業務一括委託料</td> <td style="text-align: right;">19,564,860円</td> </tr> <tr> <td>・光熱水費</td> <td style="text-align: right;">8,303,630円</td> </tr> <tr> <td>・図書館情報システム使用料</td> <td style="text-align: right;">2,881,560円</td> </tr> <tr> <td>・図書購入費</td> <td style="text-align: right;">13,058,653円</td> </tr> <tr> <td>・セキュリティゲート借上料</td> <td style="text-align: right;">4,394,280円</td> </tr> <tr> <td>・図書館利用者セルフ貸出機器等借上料</td> <td style="text-align: right;">5,410,680円</td> </tr> <tr> <td>・図書館北側軒樋改修工事請負費</td> <td style="text-align: right;">1,507,000円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・図書館協議会委員報酬	57,600円	・総合設備管理業務一括委託料	19,564,860円	・光熱水費	8,303,630円	・図書館情報システム使用料	2,881,560円	・図書購入費	13,058,653円	・セキュリティゲート借上料	4,394,280円	・図書館利用者セルフ貸出機器等借上料	5,410,680円	・図書館北側軒樋改修工事請負費	1,507,000円
・図書館協議会委員報酬	57,600円																
・総合設備管理業務一括委託料	19,564,860円																
・光熱水費	8,303,630円																
・図書館情報システム使用料	2,881,560円																
・図書購入費	13,058,653円																
・セキュリティゲート借上料	4,394,280円																
・図書館利用者セルフ貸出機器等借上料	5,410,680円																
・図書館北側軒樋改修工事請負費	1,507,000円																
事業の成果・効果	<p>図書館法に基づき設置運営する市立図書館を地域の住民に役立つ課題解決の支援、行政情報の発信、地域づくりの拠点となるよう適正に管理運営を行うとともに、老朽化した施設の営繕を行い利用者の安全確保及び安定した施設運営の維持を図った。</p> <p>図書館システムを適正に運用し、安定した図書館サービスを供給することができた。</p> <p>子ども読書空間を円滑に運営し、図書の適切な配架、イベントの実施により、子どもの読書活動を支援した。</p> <p>学校連携では、各学校からのリクエストにより、実態に即した読書活動を進めた。</p> <p>図書館サポーターによる図書の配架、イベントの実施など市民が積極的に図書館運営に参加した。</p>																

II：個別事業内訳

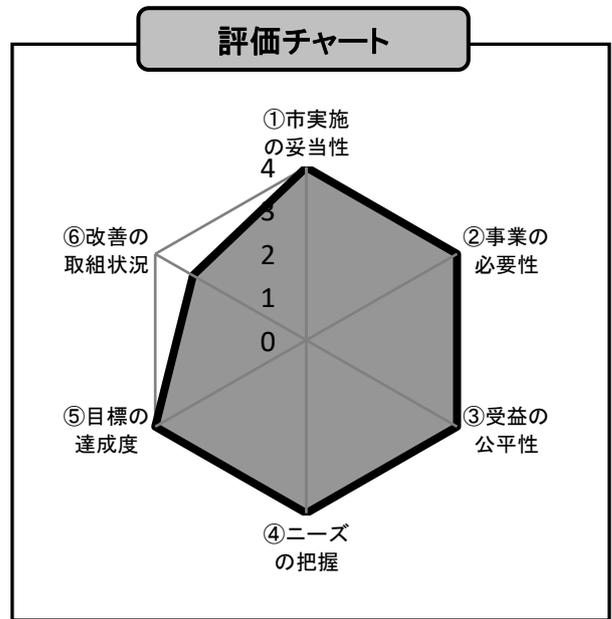
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
図書館協議会委員	64	0	64	100%	4	4	4
図書館本館管理	35,414	512	34,902	99%	4	4	3
公用車管理	109	0	109	100%	4	4	4
図書館システム運用管理	7,864	0	7,864	100%	4	4	4
図書館図書購入	16,648	0	16,648	100%	4	4	4
図書館営繕	4,668	0	4,668	100%	3	4	3
図書館ICT化	9,956	0	9,956	100%	4	4	4
合計	74,723	512	74,211	99%	3	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		85,197	74,723	75,418
財源内訳	国庫支出金	2,243	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	487	512	641
	一般財源	82,467	74,211	74,777
一般財源の割合		97%	99%	99%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	図書館法及び犬山市立図書館の設置及び管理に関する条例に基づき設置している。
②事業の必要性	4	図書館は住民の知る欲求に応えるために自治体が設置・運営するものであり、住民が情報入手し、教育や文化の発展に寄与する場である。
③受益の公平性	4	図書館は乳幼児から高齢者までの住民すべてを対象とし、資料提供の求めに応じるものである。
④ニーズの把握	4	図書館は何人でも利用できる施設であり、メール・窓口・図書リクエスト・図書館協議会など様々な方法で意見を受け取り、図書館運営に反映させている。
⑤目標の達成度	4	イベントや本の適切な配架による子ども読書空間の運用、学校連携司書の巡回、ブックイベントの開催、学校図書館司書との連携セミナーの開催、図書館システムの更新など適正に実施した。また、図書館サポーターによる市民参加の図書館運営ができています。
⑥改善の取組状況	3	利用者が安心して利用できるように適切に営繕を実施する。 子ども読書活動推進事業を積極的に実施し、図書館の利用促進につなげる。利用者の利便性向上を目指す。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨により落下した1階開架室北側天井及び軒樋の修繕を行った。</li> <li>利用者へのサービス向上のため、ティーンズコーナーの設置及び開架室のソファの入替を行った。</li> <li>図書館ボランティアによる合同イベントを実施した。</li> </ul>
令和7年度に見直しを実施している事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>高天井照明のLED照明の取替を行い、閲覧環境の改善を図る。</li> <li>非常用発電機の更新を行い、安定した施設運営を維持する。</li> <li>子ども読書空間のある2階に幼児用トイレブースを設置する。</li> <li>中学生向けブックガイドを配布する。</li> </ul>
今後見直しを検討する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な施設の維持補修</li> <li>子ども読書空間の積極的な活用</li> </ul>

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設及び設備の老朽化</li> <li>市民のニーズに応え、安心安全にサービスが提供できる施設の維持管理及び運営</li> </ul>	安心して利用できるよう計画的に修繕を実施するとともに、利用者のニーズにあった図書館運営を行う。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	5	図書館費	370

部局名	教育部
課名	文化推進課

I : 事業概要

施策事業名	教育振興（基金）
事業目的	教育振興事業基金を適正に運用し計画的に図書館図書を購入を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育振興事業基金を適切に活用する。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・基金の管理・運用・活用を適切に実施する。</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育振興事業基金利子積立 22,709円</li> </ul> </li> </ul>
事業の 成果・効果	運用で生じた利子収入を、適正に基金に積立て運用した。

II : 個別事業内訳

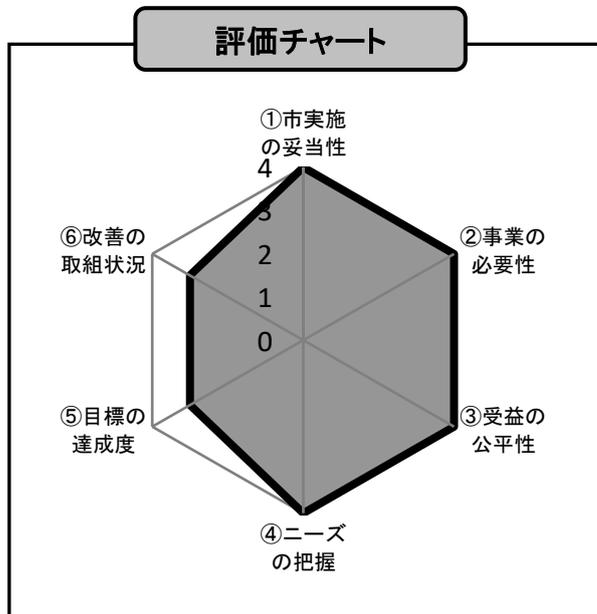
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
教育振興基金	23	23	0	0%	4	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	23	23	0	0%	4	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		3	23	29
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	3	23	29
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	教育振興のための図書充実を目的とした教育振興事業基金の適正な運用と図書購入を行なう。
②事業の必要性	4	教育振興のための図書充実を目的としているため継続が必要である。
③受益の公平性	4	図書館の本来の目的はすべての市民に対し教育と文化の発展に寄与することでありすべての市民が利用可能である。
④ニーズの把握	4	利用者からのリクエスト、学校図書館からのリクエスト、図書館の蔵書構成等により把握している。
⑤目標の達成度	3	利子収入を基金に積立したが、少額で図書購入には至っていない。
⑥改善の取組状況	3	計画的かつ効果的に図書購入ができるよう、利子収入を積み立てしていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	必要な図書資料を購入するために、利子収入を基金に積み立てをした。
令和7年度に見直しを実施している事項	次年度以降に図書を購入するため、引き続き利子収入を積み立てる。
今後見直しを検討する事項	基金の利子収入を積み立て一定額積み立てた時に図書を購入できるよう購入計画を立案する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
教育振興資金基金の運用で得られる利子収入として積み立てているが、積立額が少額のため、多くの図書を購入できない状況にある。	必要な図書資料を購入するために選書を重視し有効に図書を購入していく。読書の推進を図るため計画的かつ効果的に図書の充実を目指す。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	5	図書館費	370

部局名	教育部
課名	文化推進課

I : 事業概要

施策事業名	楽田ふれあい図書館
事業目的	楽田ふれあい図書館の管理及び運営を適切に行い、読書の推進を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市南部の地域の情報発信の拠点として、図書館本館に準じた図書館サービスを展開し、子どもから大人まで市民の読書活動の推進を図り、学校図書室と同一フロアでの運営という特色を活かし、学校との連携を図る。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書購入により資料を充実する。</li> <li>・学校の授業に役立つ資料を選書する。(学校連携)</li> <li>・図書館を適切に運営する。</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書購入費 417,320円</li> <li>・消耗品費 202,756円</li> <li>・通信運搬費 104,369円</li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	<p>楽田小学校内に設置する特徴を活かし小学校行事の際にイベントを実施することで、イベント参加者に施設の魅力を伝えることができた。</p> <p>また、楽田ふれあい図書館のチラシを作成し近隣の公共施設に設置することで施設の周知を図るとともに、地域に親しまれる施設となるよう幅広い年齢の人が訪れるきっかけとなるイベントとして、本館で実施している図書館ボランティアによる朗読会を計画・実施した。</p>

II : 個別事業内訳

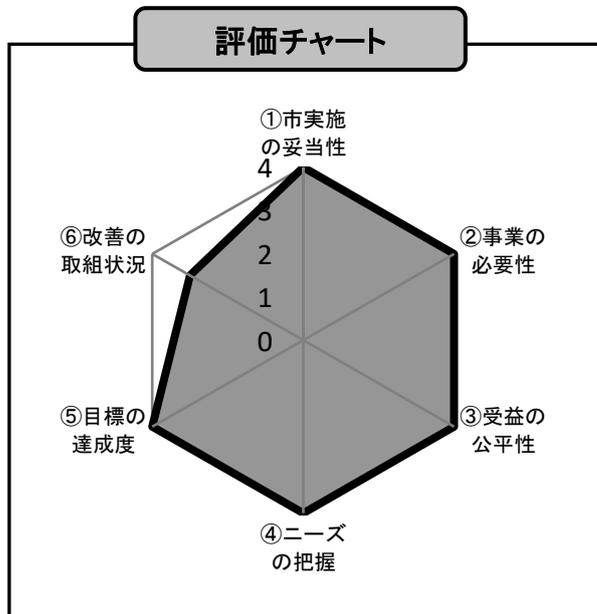
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
楽田ふれあい図書館	725	0	725	100%	4	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	725	0	725	100%	4	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		696	725	769
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	696	725	769
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	住民の知る欲求に応え、様々な図書資料を提供することは自治体としての責務である。
②事業の必要性	4	図書館は住民の知る欲求に応えるために自治体が運営するものであり、住民が情報を入力し、教育や文化の発展に資する場である。
③受益の公平性	4	図書館は乳幼児から高齢者まで住民すべてを対象とし、資料提供の求めに応じるものである。
④ニーズの把握	4	図書館は何人でも利用できる施設であり、メール、投書、窓口、図書リクエスト、図書館協議会など様々な方法で意見を受け取り図書館運営に反映させている。
⑤目標の達成度	4	楽田ふれあい図書館の運営を適切に行い、読書推進を図ることができた。イベントを実施し、地域参加型の図書館として充実させることができた。
⑥改善の取組状況	3	地域の図書館として気軽に利用できるよう施設の運営に努めた。チラシを作成し近隣の公共施設に設置するとともに、イベントを企画し、利用者数の増加に努めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	チラシを作成し近隣の公共施設に設置することで、施設の周知を図ることができた。 新たなイベントを実施し、地域参加型の図書館として充実させることができた。
令和7年度に見直しを実施している事項	地域の図書館として、引き続き施設の周知を図り、幅広い年代の人が参加できるイベントを実施し、地域に役立つ図書館づくりを目指す。
今後見直しを検討する事項	地域の人々が集う図書館としてのニーズを的確に把握できるようにサービス評価の指標について引き続き検討する。また、地域の図書館としての魅力を周知し、地域住民の利用が増加するよう検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の認知を高めるための情報発信</li> <li>新規イベントの企画運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域図書館と学校図書館が同じ空間で運営する特徴を活かした図書館づくりを目指し、一人でも多くの市民に利用してもらえるよう、学校や地域との連携を進める。</li> <li>幅広い年代の人が参加できるイベントを企画する。</li> </ul>

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	6	勤労青少年ホーム費	374

部局名	教育部
課名	文化推進課

I：事業概要

施策事業名	勤労青少年ホーム										
事業目的	勤労青少年ホームを生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康増進を図る。										
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・犬山市勤労青少年ホームの貸館業務及び維持管理を適正に行い、市民の自主的な生涯学習の場として有効に活用されるよう施設運営を行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理運営(貸館業務、管理委託)</li> <li>・施設の修繕・営繕工事</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                     <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>・施設管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">10,203,532円</td> </tr> <tr> <td>・樹木剪定委託料</td> <td style="text-align: right;">418,000円</td> </tr> <tr> <td>・光熱水費</td> <td style="text-align: right;">995,094円</td> </tr> <tr> <td>・修繕料</td> <td style="text-align: right;">242,000円</td> </tr> <tr> <td>・営繕工事請負費</td> <td style="text-align: right;">748,000円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・施設管理業務委託料	10,203,532円	・樹木剪定委託料	418,000円	・光熱水費	995,094円	・修繕料	242,000円	・営繕工事請負費	748,000円
・施設管理業務委託料	10,203,532円										
・樹木剪定委託料	418,000円										
・光熱水費	995,094円										
・修繕料	242,000円										
・営繕工事請負費	748,000円										
事業の成果・効果	<p>自主的な生涯学習の場を市民に提供するために、貸館業務を行った。                      施設を良好な状態に保つため、ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、修繕計画により施設の適正な維持管理を行った。                      昭和49年に開館した施設であり、様々な不具合が発生しているが、ICT講習室の空調のメンテナンスの実施と、自動火災報知器取替工事を行ったことで、適正に施設を管理できた。</p>										

II：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

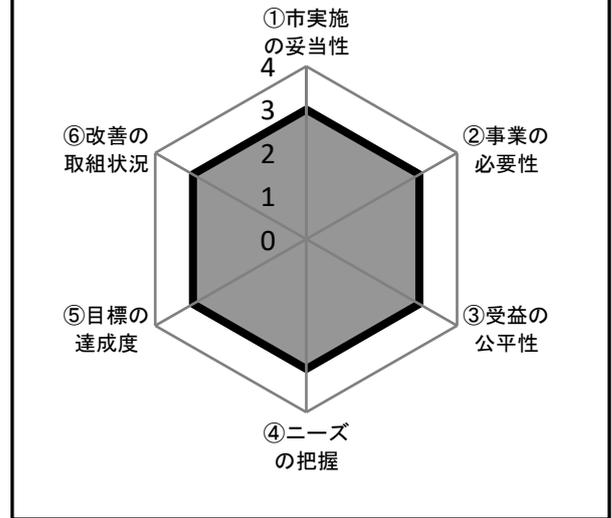
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
勤労青少年ホーム管理	12,749	49	12,700	100%	3	3	3
勤労青少年ホーム営繕	748	0	748	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	13,497	49	13,448	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		11,422	13,497	12,492
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	35	49	37
	一般財源	11,387	13,448	12,455
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	犬山市勤労青少年ホームの設置及び管理に関する条例に基づき設置している。
②事業の必要性	3	市民の教養向上、健康増進等、市民の自主的な学びを支援するために提供している施設であるが、施設の老朽化、利用状況により、縮小もやむを得ない事業である。
③受益の公平性	3	特定の団体の定期的な利用が多いが、無料施設のため、受益者の負担がない。
④ニーズの把握	3	利用者等に対してアンケートを実施し、利用状況などについて意見を聴取した。施設に管理人を配置し、常時利用者の声を聴く体制を整えている。
⑤目標の達成度	3	適切な貸館業務と計画的な修繕を実施した。
⑥改善の取組状況	3	ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、老朽化した施設のあり方を検証している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	講習室の空気冷媒配管からガス漏れが起こることから、取替工事を行った。 自動火災報知器に不具合が生じていることから、取替工事を行った。
令和7年度に見直しを実施している事項	施設のLED化工事を実施し、利用者が快適に施設を利用することができるよう適正な管理を行う。
今後見直しを検討する事項	利用者や時代のニーズを踏まえた勤労青少年ホームとしてのあり方や、施設・設備の老朽化における優先順位の検討をしていく必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
老朽化した施設の安全性の確保と維持管理	今後も利用頻度や緊急度など優先順位をつけて、施設の工事・修繕を適正に実施し、安全な施設を提供していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	7	市民文化会館費	376

部局名	教育部
課名	文化推進課

I：事業概要

施策事業名	市民文化会館管理運営										
事業目的	芸術文化の拠点施設として、市民の文化の向上を図る										
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の舞台芸術鑑賞及び発表の場、文化活動の場として貸館業務を行う。</li> <li>・施設を安全かつ適切に利用するための維持管理を行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術文化の発表及び鑑賞の場としての活用や、市民が気軽に利用できる「舞台貸し事業」などの貸館業務を実施。</li> <li>・犬山市文化協会と協力し「市民芸能祭」など、市民、文化団体が発表する場の提供及び参加型の事業の実施。</li> <li>・施設の安全を確保し、適切に利用していくために必要な保守及び修繕の実施。</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・総合設備管理業務一括委託料</td> <td style="text-align: right;">7,033,368円</td> </tr> <tr> <td>・施設管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">2,823,744円</td> </tr> <tr> <td>・舞台関係統合管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">8,406,200円</td> </tr> <tr> <td>・自主事業委託料</td> <td style="text-align: right;">7,733,830円</td> </tr> <tr> <td>・維持補修工事請負費</td> <td style="text-align: right;">11,368,500円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・総合設備管理業務一括委託料	7,033,368円	・施設管理業務委託料	2,823,744円	・舞台関係統合管理業務委託料	8,406,200円	・自主事業委託料	7,733,830円	・維持補修工事請負費	11,368,500円
・総合設備管理業務一括委託料	7,033,368円										
・施設管理業務委託料	2,823,744円										
・舞台関係統合管理業務委託料	8,406,200円										
・自主事業委託料	7,733,830円										
・維持補修工事請負費	11,368,500円										
事業の成果・効果	<p>「舞台貸し事業」の本稼働から3年が経過し、リピーターによる利用が定着したこと、また、グランドピアノを常設した防音室である練習室2の個別貸出を実施したことにより、文化会館を有効に活用することができた。</p> <p>施設を良好な状態に保つため、ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら適正な維持管理を行った。</p>										

II：個別事業内訳

(単位：千円)

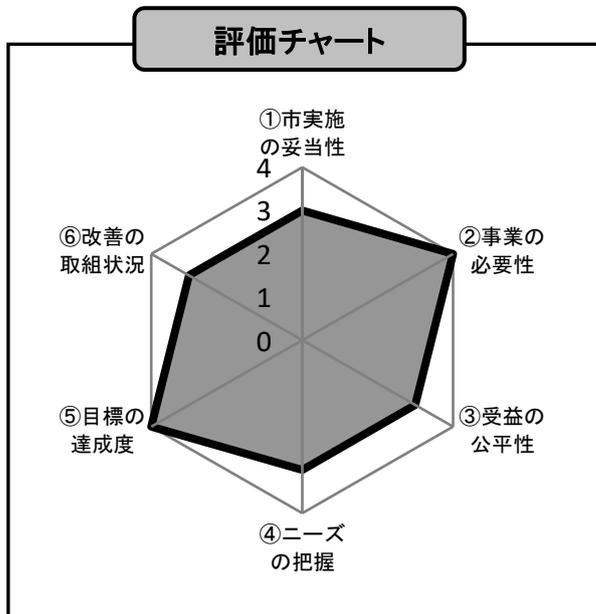
(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
市民文化会館管理	31,570	11,922	19,648	62%	4	3	3
市民文化会館利活用	9,069	5,381	3,688	41%	3	3	3
市民文化会館営繕	13,294	7,200	4,169	37%	4	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	52,008	24,503	27,505	53%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		58,720	52,008	44,212
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	7,200	0
	その他	12,450	17,303	19,414
	一般財源	46,270	27,505	24,798
一般財源の割合		79%	53%	56%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	他市町で民間によるサービスの提供が行われている事例があるため、民間委託や指定管理者制度の導入の可否について検討の余地がある。
②事業の必要性	4	市民の豊かな文化的生活の維持と、教養の向上に必要な事業である。
③受益の公平性	3	少数の市民しか対象となっていない事業であるが、入場料や使用料など相応の負担を求めて実施している事業である。
④ニーズの把握	3	事業実施時に利用者アンケートを実施し、意見の集約を行っている。
⑤目標の達成度	4	コロナ禍からの回復により、自主事業の再開、貸館の増加など、行催事が増加したことに加え、「舞台貸し」「練習室2の個別貸出」の定着により、文化会館の稼働率が向上した。
⑥改善の取組状況	3	利用案内の見直しを行い、わかりやすい表現に改正した。自主事業開催時にアンケートを行い、利用者ニーズの把握を行った。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	利用者のニーズを把握するため、自主事業にてアンケートを行った。
令和7年度に見直しを実施している事項	大規模改修に向け、改修工事の実施設計を行う。
今後見直しを検討する事項	施設の収支バランスを検証し、今後の施設のあり方を引き続き検討を行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設を改修して延命し、利活用を図りながら、施設のあり方検討を行う。	今後の大規模改修に向け、専門家の意見を参考にしながら、今後の施設のあり方を検討する。